



グローバル・フォーラム会報

THE GLOBAL FORUM OF JAPAN BULLETIN, Winter 2007 Vol.8, No.1

『メルマガ・グローバル・フォーラム』創刊さる

当フォーラムは、さる12月1日に新しくインターネット・メディアの月刊紙『メルマガ・グローバル・フォーラム』(下写真)を創刊した。本メルマガは、当フォーラムの活動の最新状況を、広く当フォーラム内外の皆様へ報告することを目的としており、創刊号は約1万名の登録者の皆様へ配信された。創刊号では、「第5回『日・ASEAN対話』開催さる」と「政策掲示板『議論百出』直近1カ月間の議論」の2つのニュースを配信した。



当フォーラムは、さる4月3日にそのホームページ上において「政策掲示板『議論百出』」を開設したが、今回創刊された『メルマガ・グローバル・フォーラム』は、「政策掲示板『議論百出』」で行われている最近1ヶ月間の議論の全容をお伝えしている。最近1ヶ月間のすべての投稿について、その見出し、投稿者名、肩書きなどを詳細に報じている。投稿者は実名を名乗り、有名人も多いので、同席しているような臨場感があるとの評もある。「政策掲示板」と「メルマガ」の両者の相乗効果が期待されている。

メールアドレスをお持ちの方であれば、どなたでも『メルマガ・グローバル・フォーラム』の新規配信を登録できる。もちろん購読料は無料。毎月1

日に発行。新規配信の登録をご希望の方は、グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) 上にある「『メルマガ・グローバル・フォーラム』配信登録」欄にアクセスしてほしい。

9-11月の「議論百出」

本『会報』前号で4-8月の政策掲示板『議論百出』の様相をお伝えしたが、その後の9-11月には56通の投稿が寄せられた。「日・ASEAN対話」、中国の環境劣化、安倍訪中、北朝鮮の核実験などの諸問題をめぐって、活発な議論が交わされている。そのうちの主なものについて、投稿日、テーマ、投稿者名を下記のとおり紹介する。<http://www.gfj.jp> にアクセスして、閲覧してほしい。

- 11/24 「日韓議員連盟合同総会に出席して」(上田勇)
- 11/15 「人間の住めるところでなくなっている中国」(宮脇磊介)
- 11/9 「東アジア地域協力とAPEC」(大河原良雄)
- 11/9 「建設的ではない核論議」(伊奈久喜)
- 11/6 「安倍首相訪中と政治の道徳」(伊藤英成)
- 10/27 「日本は対北朝鮮防衛力を『確証』せよ!」(佐島直子)
- 10/11 「安倍アジア外交の試練」(村田晃嗣)
- 9/25 「陸上自衛隊のイラクにおける活動を評価しよう」(長谷川和年)
- 9/14 「日・ASEAN対話:伊藤理事長の基調報告に目を開かされた」(湯下博之)
- 9/4 「天皇の戦争責任について」(田島高志)
- 9/4 「中印協力はアジアの平和と安定にとって有益だ」(森下義孝)

「日中対話」開催迫る

2007年のグローバル・フォーラムの仕事始めは「日中対話」となった。1月24日(水)に東京の国際文化会館で実施する。テーマは「日中対話:日中関係とエネルギー・環境問題」。

日中関係は、さる10月の安倍首相の訪中によって、新展開を見ることになったが、そのような日中の新しい「戦略的互惠関係」において最も緊急の対応が期待される問題は、両国間のエネルギー・環境協力であり、「対話」は時宜を得たテーマとなっている。

今回の「日中対話」は、2部構成となっており、第一部「新しい時代に入った日中関係」においては日中関係全体の現状認識を確認し、そのあと第二部「エネルギー・環境問題と日中協力」においては両国間の具体的な協力の可能性を模索する。

中国側の共催相手も、第一部は「中国現代国際関係研究院(CICIR)」、第二部は「国家開発改革委員会能源研究所(ERI)」と別建てになる予定。

中国側からは馬俊威CICIR日本研究所副所長、劉強ERI研究員などが、また日本側からは小島朋之慶應義塾大学教授、廣野良吉成蹊大学名誉教授、鶴野公郎慶應義塾大学名誉教授、藤野彰読売新聞前中国総局長などが参加する。

この「日中対話」は、読売新聞社の協力を得て実施され、同紙上において特報される予定である。

この「日中対話」には、当フォーラムのメンバーおよび「友の会」会員のほか、一般の参加希望者も先着15名に限り招待する。参加希望者は往復はがきの返信用はがきに住所、氏名などを明記の上、事務局あて応募のこと。

「グローバル・フォーラム友の会」発足

グローバル・フォーラムは、1982年の創立以来4半世紀以上にわたり、米国、中国、韓国、台湾、ASEAN諸国、インド、豪州、欧州諸国、黒海地域諸国等の世界の国々、地域との間で政策志向の知的国際交流に努めてきた。

これらの活動は、直接的には当フォーラムの「財界人・有識者・政界人メンバー」の皆様のご貢献によるものであるが、同時に忘れてならないのは、「メンバー」以外にも多数の方々の縁の下のサポートがあり、その結果初めて当フォーラムの活動が成り立っていたという重要な事実である。

このような認識を踏まえて、当フォーラムは、今後の活動のなお一層の活性化を図るために「グローバル・フォーラム・メンバー」とは別に、こ

の度「グローバル・フォーラム友の会」を設けることとなり、その会員の募集を始めた。

「友の会」は、当フォーラムの目的に賛同し、その諸活動を支援するため、年会費1口3,000円を納入する会員から成るものとし、「友の会」会員は当フォーラム主催の「国際対話」等の会議に「メンバー」とともに優先的に招待されるほか、各種の特典をもつ。詳細については、グローバル・フォーラムのホームページ (<http://www.gfj.jp>) の『「グローバル・フォーラム友の会」入会案内』欄にアクセスしてほしい。当フォーラム事務局まで郵便やメール (info@gfj.jp) で直接お申し込み頂いてもよい。

外交円卓懇談会

11月29日來訪のソルマーズ・ウナイドゥン駐日トルコ大使は「中東・欧州・アジアの十字路に位置するトルコ」と題し、「トルコは東西の架け橋と言われる。アジア・中東の伝統を守りつつも、自由経済、民主主義、政教分離の多民族近代国家を実現した。今後はその地政学的、文化的背景を活かして、東西対話でより重要な役割を果たすとともに、EUに加盟を求め、イスラム原理主義とは一線を画す」などと語った。

国際政経懇話会

第187回「国際政経懇話会」が10月16日開催され、山内昌之東京大学教授の「中東危機と北朝鮮の核実験は無縁ではない。イランと北朝鮮の核の『非神聖同盟』があり、北東アジア危機と中東危機はリンクしている。テロの脅威が核と結びついて核テロの様相を示し始めている。ヨーロッパはイスラームとの関係の歴史認識ならびに対話に努める必要がある」との講話のあと、出席者21名との間で懇談が行なわれた。

「日・黒海地域対話」開催へ

グローバル・フォーラムは、2005年11月に第1回「日・黒海地域対話」を開催したが、今秋に「激動する世界における日本と黒海地域」とのテーマでその第2回を開催することが、ほぼ固まった。

第1回「対話」のあと、日本国内では研究者の間に「黒海学会」が、国会議員の間に「黒海研究会」が結成されるなど、黒海地域への関心は急速に高まっている。黒海地域の戦略的重要性を踏まえて、グローバル・プレーヤーとしての日本の役割を問うことになろう。

レオニダス・クリサンソプロス黒海経済協力機構(BSEC)事務総長やイオアン・パシク元ルーマニア国防相の協力を得て、開催準備は順調に進んでいる。

フォーラム活動日誌(9-12月)

- 9月12日 第186回国際政経懇話会(谷内正太郎外務事務次官他32名)
- 9月27日 第23回外交円卓懇談会(Jennie Chok香港代表他13名)
- 10月3日 Hemant Krishan Singh駐日インド大使往訪、懇談(甲斐紀武世話人他2名)
- 10月16日 第187回国際政経懇話会(山内昌之東京大学教授他21名)
- 10月19日 Blagovest Sendov駐日ブルガリア大使往訪、懇談(甲斐世話人他4名)
- 10月23日 Aurelian Neagu駐日ルーマニア大使往訪、懇談(甲斐世話人他2名)
- 10月25日 Solmaz Ünaydin駐日トルコ大使往訪、懇談(甲斐世話人他3名)
- 11月1日 Hugh Richardson駐日欧州委員会代表部大使往訪、懇談(甲斐世話人他3名)
- 11月8日 Mohsen Taleai駐日イラン大使来訪、「日・イラン対話」協議(甲斐世話人他3名)
- 11月10日 第24回外交円卓懇談会(Werner Kaspar氏他8名)
- 11月17日 第188回国際政経懇話会(北岡伸一前国連代表部大使他22名)
- 11月28日 「グローバル・フォーラム友の会」発足
- 11月29日 第25回外交円卓懇談会(Solmaz Ünaydin大使他13名)
- 12月1日 「メルマガ・グローバル・フォーラム」創刊

■新規入会メンバーの紹介

(9-11月分)

【経済人メンバー】

石川 洋 鹿島建設取締役

【有識者メンバー】

斉藤 彰 読売新聞調査研究本部長

謝 辞

当フォーラムの諸活動の主要な財政的基盤は、その経済人世話人および経済人メンバーの所属する企業の納入する賛助会費にあります。

現時点における賛助会費納入企業は、下記の13社21口です。ここに特記して謝意を表します。

【経済人世話人所属企業】 [5口]

トヨタ自動車 キッコーマン

【経済人メンバー所属企業】 [1口]

住友電気工業 鹿島建設

新日本製鐵 東京電力 旭硝子

三菱東京UFJ銀行 日本電信電話

富士ゼロックス ビル代行

エイチ・アイ・エス 日本郵船

(入会日付順)



グローバル・フォーラム会報
2007年冬季号
(第8巻 第1号 通巻第29号)

発行日 2007年1月1日
発行人 伊藤 憲一
編集人 渡辺 蘭

発行所 グローバル・フォーラム
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-12-1301
[Tel] 03-3584-2193 [E-mail] info@gfj.jp
[Fax] 03-3505-4406 [URL] http://www.gfj.jp/